

令和6年度 学校総合評価

今年度の重点目標に対する総合評価

本校の役割は、不登校経験者の学び直し、障害や困難を抱える生徒への特別な支援、外国籍等の生徒への支援など多岐にわたっている。そうした生徒一人一人に対して、先進的な教育手法による基礎学力の保証はもとより、社会で自立して自己実現を図る力を育むことが重要となっている。そのため今年度は5つの重点課題に取り組んだ。

- (1) 「学習活動」については、単位修得率は微増したが目標を達成するには至らなかった。単位修得率の向上は成績だけではなく出席率と関係しているため、長欠者の増加が原因と考えられる。生徒の学習実態については、「学習時間調査」や面談・個別指導の実施により把握した。受講している講座によっては家庭学習時間が伸びないものもあるので、受講講座数と合わせて調査するなど実態に即した調査の工夫が必要である。また、生徒の実態を踏まえた授業の工夫や進路目標の明確化による内発的な動機付け等、生徒の主体的学習活動を促す取り組みを継続する必要がある。
- (2) 「学校生活」については、昨年度に引き続き「あいさつ」の定着と遅刻の防止について取り組んだ。昨年度から微増はしたが目標値に到達せず、指導を継続する必要がある。生徒が自らの健康について適切な知識や情報を収集し、課題意識をもって生活改善に取り組む力を育むため、生徒向けの研修会や特別活動の充実を図った。その結果、生活を見直し改善への意欲をもつ生徒が増え、目標を達成することができた。また、教育相談や特別支援教育に関する研修会を実施することで、教員の理解を深めた。今後も生徒が安心して学校生活を送り、自立した人間として他者と共によりよく生きる力を育むことができる学校づくりに努めたい。
- (3) 「進路支援」については、今年度の目標としていた進路目標達成率 90%以上をクリアするために、受験対策の個別指導に力を入れたが、達成には至らなかった。1・2年次の生徒には、キャリアパスポートの活用やインターンシップ、オープンキャンパスへの参加を推進し、計画的・継続的なキャリア教育の実施に努めた結果、約8割以上の生徒が明確な進路目標をもつことができ、目標を達成することができた。生徒の進路希望が多様化してきており、見学や体験の機会を増やし学校全体で進路意識が高まる雰囲気作りが必要である。
- (4) 「特別活動」については、どの行事も生徒の満足度は高く、彼らが大きく成長していく一助となっている。生徒一人一人が各行事の企画や運営に積極的に関わられるよう工夫したことが要因であると考えられる。図書の出率については、図書室の環境整備や新たな企画が実を結び、目標値を上回ることができた。学校関係者から寄せられたご意見も参考にして、読書習慣の定着に取り組むとともに、新聞などの情報を利用しやすい工夫に努め、図書室が学校における生徒の大切な居場所となるようにしたい。
- (5) 「各種検定試験への取り組み」については、資格取得という成功体験をすることにより専門学科の学習に自信をもち、学習意欲の向上につながっている。安定して目標を達成してきているので、継続的に取り組んでいくとともに、新たな目標設定も検討する必要がある。

次年度へ向けての課題と方策

本校では、多様な生徒に対応し、授業改善やICT教育の推進、通級指導による個別指導・個別支援、SC・SSWを活用した教育相談等の一層の充実を図り、学習意欲の向上や集団活動への積極的な参加を目指して、生徒一人一人の自己実現に資するよう、教職員間のみならず、保護者・地域・外部機関との連携も深めながら、個に応じたきめ細かい教育を実践していきたい。

学校アクションプラン

令和6年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） ・生徒の学習実態の把握
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・登校が難しかったり、安易に授業を休んだりする生徒が見受けられる。 ・学習意欲が低く、学習習慣が身に付いていない生徒がみられる。 ・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。
達成目標	①単位修得率
	②「学習時間調査」の実施
	90%以上
	2回（前期1回、後期1回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習・生活の手引き」（授業の記録）を生徒一人一人に記録させ、自己管理を促す。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・基礎・基本を復習する機会を設ける。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実させる。 ・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。
達成度	単位修得率（前期） 83.1% 前期1回（後期1回実施予定）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・受講ガイダンスや受講登録を通して、生徒が単位修得について考える機会をもった。 ・履修状況を前期末の成績会議で共有した。 ・自校や他校の学校訪問を利用した授業見学の情報を提供し、他の教員の授業を参観して授業研究に生かしている。 ・履修のみの数は昨年度より減少したが、単位修得率は微増のみであった。
評 価	C <ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率が前年度前期とほぼ変わらず、目標値に達していない。 ・学習時間調査については、様式を変更し、より実態把握をしやすいようにできた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動について、約8割の生徒が単位を修得しているのは先生方の努力の成果だ。 ・学習時間調査に関して、高い目標をもち3～4時間学習している生徒の情報も共有するとよい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率の向上は生徒の成績だけでなく、出席率と関係していると考える。 ・生徒の受講している講座によっては、家庭学習時間が伸びないものがあるので、来年度も受験した講座数と合わせて、調査する。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成 ・ 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより朝起きられない生徒がいる。 ・ 自ら挨拶を交わすことのできる生徒が少ない。 ・ 発達障害のある生徒や不登校経験者など、生徒が多様化している。 ・ 心身の不調から、登校や授業への参加が困難になっている生徒が毎年みられる。 ・ 自らの生活を振り返り、心身の健康を育むために必要な知識や意欲、自信に乏しい様子がみられる。 ・ 生徒が、心身の健康について適切な知識を獲得し、主体的に考え、具体的に生活を改善しようとするための研修会や保健行事、ホームルーム活動等の活躍の場が必要である。 	
達成目標	①学校生活アンケート	②心身の健康について考える特別活動の実施と、参加生徒の具体的な生活改善
	挨拶・遅刻について 良好またはおおむね良好 70%以上	「生活を見直した」「改善した」70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。 ・ 生徒指導ホームルームを実施し、挨拶の重要性を認識させるとともに、「あいさつ運動」を通して、挨拶の習慣を身につけさせる。 ・ 保護者等の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。 ・ 生徒の多様化と社会の実情に照らし合わせ、生徒の指導方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康診断の結果を生徒自らが入力することで、自分の健康状態について正確に把握する。 ・ 心身の健康に関する研修会（「健康を考える日」）を実施する。 ・ 生徒保健委員会を中心に、心身の健康に関する調査、研究を行い発表することで、全校生徒に内容を周知し、実際の生活改善を具体的に提案する。 ・ 心身の健康課題に取り組むホームルーム活動を提案し、実施に協力する。 ・ 活動毎に、生徒の意識向上や生活改善の状況を調査し、全体の平均が70%以上になることを目指す。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする 63.9% (昨年度58.9%) ・ 遅刻をしない 65.1% (昨年度63.8%) 	「生活を見直した」「改善した」80%以上
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒校風委員による「あいさつ運動」を14回実施した。 ・ 各学期初めに、遅刻防止等の目的とした校内巡視を行った。 ・ 生徒指導ホームルームとして、外部講師による挨拶についての講演を実施し、挨拶の演習を行った。 ・ 保護者会の際、長期休業中の生徒心得を配布し、高校生としての適切な生活について共通理解を図るとともに、家庭での協力を仰いだ。 ・ 個々の生徒の特性や状況を年次、保健・教育相談部と情報共有し、指導に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月健康診断後に生徒自ら結果を入力したところ自分の健康状態を振り返り、歯磨きや体重管理に関わる生活改善を意識する生徒が増加した。 ・ 生徒保健委員会でストレスに関するアンケートを実施したところ、82%の生徒が「ストレスあり」と答えた。ストレスに関する生徒向け研修会を実施したところ、約40%の生徒がストレスと上手く付き合うために生活を改善したいと答えた。 ・ 生徒保健委員会でさらに調査研究をすすめ、ストレスに関する研究発表と、ストレス解消を提案する「リラックスルーム」の運営を文化祭で行った。 ・ 「ストレスとの付き合い方プロジェクト」と題して、1週間の生活改善の取り組みを、HRを通して全校生徒に提案したところ、80%以上の生徒が「今後もストレスと付き合うための生活改善を継続していきたい」と答えた。 ・ スクールカウンセラーを講師に迎え、「ストレスとの付き合い方」「SOSの出し方教育」に関する講演を、ホームルーム活動内で実施することができた。
評 価	B 昨年度より、挨拶をする傾向は少し増加。遅刻しないのはほぼ横ばい。毎月実施している「行動・身だしなみ」自己チェックでは、4月から月を追うごとに、挨拶すること、遅刻をしないことへの意識が徐々に低くなる傾向であった。	A 約8割の生徒が生活を見直し、改善への意欲をもつことができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいさつ運動」を14回実施したのはすばらしい。月を追うごとに意識が低下するのは大人も同じで、新年度に向けてリセットしていけばよい。 ・ 目標②で生活改善を図ることは目標①の改善にもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 80%以上の生徒が生活を見直し改善したのはすばらしい。 ・ ストレス社会で生きていくにあたり高校時代にこのようなことが学べるのはよい。 ・ 新しい貸しビルではリラックススペースを併設するところが多い。社会の流れの中で取り入れられるものを取り入れていけばよい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶、遅刻については学期始め等、定期的に生徒の意識を維持する方策が必要である。また、このことに限らず、社会の変化や多様化する生徒の実情に応じた生徒の指導方法を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒保健委員会の活動を中心として、生徒が主体的に健康の保持増進に努める力の育成をはかることができた。今後もこの取組を継続したい。

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり ・キャリア発達に応じた進路支援と、主体的な進路選択・自己実現の達成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒がみられる。 ・進路実現に必要な基礎学力および一般常識、マナーが不足している生徒がみられる。 ・進路決定に向けて特別な支援を必要とする生徒がみられる。 	
達成目標	①卒業予定者の進路目標達成率	②11月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合
	90%以上	1年次50%以上 2年次70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進学のための特別補習、一般常識コンクール、外部模試等を計画的に実施することで、進路目標達成に必要な学力を育成する。 ・学科および就職支援教員(JST)や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、自己表現力を身に付けるよう指導する。 ・進学希望者には奨学金制度の説明を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、進路意識の高揚を図るとともに、主体的に進路を選択する力を育成する。 ・インターンシップやオープンキャンパスへの参加を促し、進路研究を進めるとともに、自己理解の機会とする。 ・キャリアパスポートでポートフォリオを蓄積する習慣を付けさせることで、自己の目標に向かっていくかを振り返りながらキャリア形成を図る。
達成度	88%	[1年次] 88% (11月調査) [2年次] 87% (11月調査)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進学のための特別補習の充実を図りつつ、国立大学を目指す生徒には特別な対応を行った。 ・外部講師を招くなど、就職のための特別補習を充実させるための取り組みを行った。また、JSTと連携し、より良い就職先を検討した。 ・HPを使い、奨学金情報の周知に向けた取り組みを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスの充実を目指し、生徒の実態に合った内容を選んだ。とくに進路講話の外部講師については十分に検討した。 ・GoogleClassroomを利用して、生徒への進路情報の周知に向けた取り組みを行った。 ・就業体験を充実させることで、進路意識の高揚を図った。
評 価	C 達成には至らなかった。	A 目標を達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業年次で進路が定まらないことに対しては学校全体で子どもたちと向き合っていく体制づくりが必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次の段階で進路目標が定まっている生徒の割合が高いのはキャリア教育が充実しているからだと感じる。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進学においては進路研究が不十分な者が見られた。また、自己理解・評価が十分でない者も見られた。 ・卒業が不確実な者については、とくに就職において出願の見送りが起こってしまう。卒業に対して余裕を持てる指導が必要である。 ・アルバイト継続を減らしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や体験の機会を増やし、年次および学校全体で進路意識が高まるような雰囲気作りが必要である。 ・進路行事において年次との関係の強化が必要である。 ・教員に対しても、進路指導の助けになるような情報提供が必要である。

重点項目	特別活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進 ・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や学校行事には、ほとんどの生徒が積極的に参加しており、また募金活動においても協力的である。 ・コロナ禍以降、例年参加していたボランティア活動の参加者数は一時減少したが徐々に回復しつつある。 ・図書委員会では高岡市立中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、参加者が特定の生徒に偏っている。また、図書室を利用する生徒も限られ、読書習慣が確立しているとは言えない。 		
達成目標	① 学校行事の企画運営に関する満足度	② ボランティア活動に関わった生徒の満足度	③ 在籍生徒一人あたりの貸出冊数
	90%以上	80%以上	0.5冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を学校行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。 ・ボランティア活動への参加を促す。 ・学校行事やボランティア活動の後、アンケートを実施し、各行事やボランティアに対する生徒の積極的な関わり度や問題点を把握する。 ・積極的な関わり度が低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が各行事に積極的に関わられるよう工夫する。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ① 校内生活体験発表大会 94.3% 校内スポーツ大会 95.1% 文化祭 100% カルタ大会 (2/6 予定) 	② 100%	0.75冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会でアンケートを実施し、その結果を行事の内容に反映させることで参加意識が高まった。 ・ボランティア活動を希望していたが、中止になったり、内容が変更になったりし、参加できなかった生徒がいた。 ・行事後のアンケートを行うことで、生徒の率直な意見を知ることができた。 		
評 価	A	概ね目標は達成できた。	A 目標を上回ることができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の企画運営に関しては、今後もアンケート等で生徒の意見を取り入れていくことが大切だ。 ・生徒はボランティア活動をとおして、やりがいを感じていると思われる。 ・全校生徒数からみるとボランティアに参加している生徒の数が少ないように思う。参加生徒がもう少し増えるような取り組みを期待する。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を希望している生徒に、希望しているボランティアが中止になったとしても、何らかのボランティア活動に参加できるような働きかけをしていかなければならない。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員によるおすすめ本紹介を行い、文化祭で展示企画を行った。 ・図書だよりを昨年より多く発行し、新着本の紹介などもこまめに行った。 ・読書感想企画や椅子の整備などを通して、生徒が以前より図書室に来てくれている。 ・蔵書点検を通して図書の廃棄を行うことで図書が見やすく探しやすくなった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成は新たな取り組みを工夫された成果だ。 ・本の紹介にPOPが効果的だ。 ・一人1冊は本を読ませたい。校長先生おすすめの本などをPOP付きで紹介してはどうか。 ・図書館に新聞が置いてあるということで、新聞とネット情報、両者のメリットを活かしていけたらよい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員を中心に行っているPOP紹介をさらに進める工夫と回数を増やしていきたい。 ・図書環境の整備を進めるとともに新聞などの情報を利用しやすい工夫をしたい。 		

重点項目	専門教科学習活動の充実と検定試験合格対策	
重点課題	<p>総合ビジネス科/情報ビジネス科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生徒に対して専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図る。そのため各種検定試験を活用して効果的な対策を行い、実態に応じた資格取得を目指す。 <p>生活文化科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活産業に関連する基礎的な知識・技能の習得の一環として、被服、食物、保育、情報の各分野の検定試験に取り組み、合格を目指す。また、その過程において主体的に取り組む態度を育む。 	
現 状	<p>総合ビジネス科/情報ビジネス科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の読解力や計算能力など、基礎学力が不足している生徒がみられる。 ・生徒が多様化しており、一斉の目標を立てることが困難である。 <p>生活文化科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習空白があるために基礎学力が定着していないことや、学習に対する苦手意識が強い生徒がみられる。 ・生活経験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身に付いていない生徒が多い。 ・学校生活での経験不足のために検定受験に対する意欲や目的意識を持ってない生徒がいる。 	
達成目標	①総合ビジネス科/情報ビジネス科	②生活文化科
	卒業時の検定1級取得率40%以上	各種検定受検者の合格率 家庭科系（被服・食物・保育）90%以上 商業科系70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。 ・関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用し、家庭での学習習慣の定着化を図る。 ・個々の生徒の特性や理解度に応じた資格取得を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月当初に検定受験の目的と合格の意義を伝えることで、検定への見通しを持たせ意欲を高める。 ・個々の生徒が抱える苦手や能力の把握を早期に行い、個別対応での指導を行う。 ・学習の苦手意識が強い生徒への、段階的な指導および、成功体験の積み重ねにより自信を持つような支援を行う。 ・教員同士が情報共有を行うことにより、生徒が取り組みやすい自主教材を工夫する。
達成度	57%	家庭科系（100%）商業科系（73%）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲を引き出す指導 ビジネス科コンテストの継続実施 ・生徒の興味関心に応じた個々の指導 希望する生徒に対する補習の実施 ・家庭学習に対する課題学習の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定内容に変更があった被服4級では早期に事前指導を開始。課題等で技能を的確に評価し個別指導を充実させた。 ・他科目も希望者には補習を実施し保育検定では上位級を他校で受験するなど意欲の向上が見られた。
評 価	A 達成目標を上回ることができた。	A 達成目標を上回ることができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成は素晴らしい取り組みだ。きめ細かい指導が成果を上げたものと考え。今後も取り組みを継続していただきたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2級取得率（80%以上）の維持 ・1級取得率（40%以上）の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・3級受検者の全員合格

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかというと達成できていない D: ほとんど達成できなかった